

株式会社 オークラテラス

DX宣言書

2026年9月25日
株式会社 オークラテラス
代表取締役 新羅 裕一

□ 経営理念

人々の安心できる暮らしを支え、住まいを通じて豊かな地域社会の実現に貢献する

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

物件・顧客・契約・収支に関する情報を一元管理し、クラウドシステムやAI技術を活用した情報整理と業務標準化を通じて、提案力・顧客対応品質の向上と迅速な経営判断を実現します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2028年8月)

戦略 「不動産情報の一元化と業務標準化による、顧客価値の向上と経営管理基盤の整備」

◆ 顧客接点領域

- 施策
- ・ 契約業務の効率化と書類管理の負担軽減に向けて、電子契約システムを本格運用し、契約手続きのペーパーレス化を推進
 - ・ 顧客対応と契約管理の精度を高めるため、顧客管理システムを導入し、集客・契約・決済に関する情報を一元管理
 - ・ 新規エリアでの物件開発を円滑に進めるため、施工会社・管理会社との情報共有ルールを整備し、エリアを問わず同一品質で業務を推進できる体制を構築

◆ 社内業務領域

- 施策
- ・ 物件・入居者・融資案件・契約書類に関する情報を一元管理するため、クラウド上で必要情報を集約・整理できる環境を構築
 - ・ 家賃入金・経費・返済・キャッシュフローを適時に把握するため、会計システムを導入し、金融機関口座との自動連携による集計体制を整備
 - ・ 物件別・エリア別の収支状況を効率的に把握するため、AIを活用して契約情報と入出金データを連携し、自動集計・分析を推進
 - ・ 手作業による確認・転記作業を削減するため、物件・契約および会計情報の管理ルールを統一し、システム間のデータ連携を実施
 - ・ 日常業務を効率的に処理できる体制を整えるため、スケジュール管理・定型文書作成・情報整理にAIを活用

➤ フェーズ2(2028年9月 ～ 2029年8月)

戦略 「データ活用による経営判断の高度化と企業価値向上を実現」

- 施策
- ・ 経理・物件管理・顧客対応・提案業務の効率化をさらに進めるため、フェーズ1で整備したデータ基盤とAI活用の仕組みを連携し、業務全体を一気通貫で管理できる体制を構築
 - ・ 複数エリアでの事業展開を推進するため、データを活用してエリア別の物件情報・収支実績・顧客動向を分析し、地域特性に応じた投資判断と事業展開を行える仕組みを構築

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ 代表取締役を中心に、事業の成長に応じたDX推進体制を構築します

□ DX推進目標

- ・ 会計システム導入 : 完了(～2026年12月)
- ・ 契約書類の紙運用比率 : 2026年度比 50%削減(～2029年8月)